

特許法改正法律案外四件特別委員小委員會會議事速記録第三號

(一八五)

委員氏名

委員長	侯爵細川	護立君
副委員長	和田	彦次郎君
委員	子爵片桐	貞央君
	松室	致君
	木場	貞長君
	男爵池田	長康君

大正十年三月二十二日(火曜日)午後一時十分開會
○副委員長(和田彦次郎君) ソレデハ是ヨリ小委員會ヲ始メマス、本院委員會ガ澤山ゴザイマス爲ニ、速記者ノ方ヘ餘程差支ヲ成シテ居リマス、時間ヲ切ツテ速記者ガ玆ニ出席シタヤウナコトデゴザイマスカラ、過日來御質問ニ相成リマシタ殊ニ速記ヲ要スルト云フ條項ヲ先ヅ御質問下スツテ、サウシテ其實ヲ速記ニ留メタイト考ヘマス、特許法ノ第十四條、是ハ速記者ノ出席ヲ待ツテ質問スルコトニ保留シテアリマス、此點ニ付テ御質問ガアレバ此際御質問ヲ願ヒタイ

○男爵池田長康君 十四條ノ第三項ニアリマス衆議院カラ修正ニナリマシタ處デ前項ノ規定ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者カ其ノ發明ヲ實施スル場合亦同シ、此修正ノ點デアリマスガ、斯様ニ致シマスルト、詰リ會社ナリ其他法人ノ如キ者ガ餘リニ拘束サレ過ギハシマイカ、而モ此發明者ノ發明ハ其業務執行ノ範圍ニ屬スル事柄ニ付テ發明シタノデ、故ニ會社ナリ又其法人ト云フ者モ此發明ニ對シテハ多少過スベキ當然ノ道ガアルヤウニ考ヘラレル、現行法ニ依リマスルト餘リニ發明者ヲ遇スル道デ無カッタ様ニ考ヘマスガ、併シ今度ノ改正案ニ依ルト特許權ソノモノニ付キマシテハ既ニ發明者ニ權利ハ歸屬スルノデアリマス、デアリマスカラ此場合ニ於テ實施權ニ付テハ寧ろ法人ナリ其他會社等ニ實施權ダケ有セシムト云フ原案ノ方ガ非常ニ私ハ公平ナ處置デアアルヤウニ考ヘラレル、又之ニ付キマシテ

ハ、法律上ノ點ニ付キマシテハ、私ハ未ダ明確ナ判斷ヲ有シマセヌガ、此點ニ付テモ多少自分トシテハ未ダ得心ガ行ツテ居リマセヌ、實質ノ問題ニ付テモ此點ニ付テ改正案ヨリモ原案ノ方ガ修正案ヨリモ何ダカ私ハ宜イヤウニ考ヘラレル、此點ニ付テ一應政府當局ノ御説明ヲ仰ギマス

○政府委員(中松眞卿君) 御説明申上ゲマス、御説明ノヤウニ原案ニ於キマシテハ業務範圍ニ屬シ且任務ヲ屬シマス行爲ニ付テ發明シタ場合ニ、其發明ハ特ニ會社トカ雇主ノ方ニ歸屬セシムル約束ヲ致シマシタル場合ニ於キマシテ、其特許權ガ使用主ニ移リマシタ時ニ限ツテ、發明又ハ被僱者ノ方ニ相當ノ補償金ヲ與ヘルヤウナ事實ガアリマス、其發明ヲ致シマシタル場合ニ特許ヲ受ケル權利又ハ特許權ヲ會社ニ歸屬サスト云フ契約ガアリマセナカッタ場合ニ於キマシテハ、發明者ガ權利ヲ得ル譯デゴザイマスガ、其時ニ會社ノ方ニハ業務範圍ノ事柄デアアルシ、又サウ云フ任務ヲ持ツテ居ッタモノデアリマスカラ、特ニ權利ヲ移轉セスト云フ契約ガ無クツテモ、實施權位與ヘルガ相當デアラウト云フ事ヲ考ヘマシテ、實施權ハ無報酬ト云フ事ガ出テ居リマスノデアリマス、併ナガラ衆議院ノ意見トシテ權利ガ發明者ニ屬シタル時ニ於キマシテモ雇主ノ方ニハ業務範圍ノ事柄ヲ任務トシテ與ヘマシタ以上、相當ナ金ハ拂ツテ居ル譯デゴザイマス、其場合ニ於キマシテ特別ノ契約ノ結果、權利ガ雇主ノ方ニ移ツテ參リマスル時ニモ、其發明ノ價值如何ヲ斟酌シテ相當ノ補償金ヲ與フルコトガ出來マス以上ハ、此特許權ガ發明者ニ屬シマシタ時ニ無報酬デ實施スル權利ヲ當然得ルト云フコトハ如何ナモノデアラウ、大體此業務ニ付キマシテ發明ヲ致シマシタル場合ニ於キマシテハ、雇主ノ方ハ直チニ之ヲ大仕掛デ實行スルコトガ出來ル立場ニ在リマスカラ、非常ナ有力ナ競争者トナルノデゴザイマス、ソレデアリマスカラ、發明家ニ對シマシテ相當ノ補償金ヲ與フルト云フコトハ寧ろ明言シテ置キマシタ方が、能ク

世間ニ在リマスヤウナ發明ヲ致シマス場合ニ、是ガ特許權ハ自分デ得ラレルケレドモ、併ナガラ此法律ノ規定ニ依ツテ假令實施權ハ止メマシテモ、實際上ソレヲ實行スルコトハ差支ナイノデアリマスカラ、ソレハ無報酬デ出來ルトナルト、今日ノ場合ニ於キマシテモ、特許權ガ會社ニ歸屬スルコトヲ恐レテ會社ヲ罷メテカラノ後出願スルト云フヤウナコトガ往々ゴザイマスルカラ、サウ云フ憂ヲ除ク點ニ付テモ有效デアアルマイカ、サウシテ却ツテ發明家ヲ安心ヲシテ會社ニ置イテ置クコトガ出來テ、會社ノ方カラ見テモ利益デハアルマイカ、又今日ノ實情ニ徹シマスノニ、會社ノ方ニ於キマシテハ職工ナリ技師ナリノ發明ヲスルヤウニ獎勵イタシテ居リマス次第デアリマスカラ、相當ノ補償金ヲヤルト云フコトハ實際上ヤツテ居ル次第デアリマス、實行致シマスル場合ニ於キマシテハ——實施シナイデモ直チニ相當補償金ヲ拂ハナクチャナラスト云フコトハ少シ酷ダケレドモ、此發明ヲ會社ガ實施セムトスル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ拂フコトハ必ズシモ不當デ無カラウ、斯ウ云フ意見カラ玆ニ衆議院ノ修正案ガ出マシタヤウナ次第デゴザイマス、法律上ノ議論ト致シマシテハ、或ハ既ニ實施權ガ一方ニ有ルト云フコトヲ規定シテ置キナガラ、其後ニ相當ノ補償金ヲ受ケル權利ガ有ルト云フコトヲ一方ニ於テ規定スルコトハ如何ト云フ疑念モ起リマス、雙方ノ規定相待ツテ玆ニ所謂實施權ト云フモノ、性質ガ法律ニ依ツテ明定セラレテ行クモノト解釋スルコトガ出來ルデアラウ、斯ウ云フ意見ヲ持ツテ居リマシテ、是ハ此特許法ノ三十八條ニモ亦同様ナ見解ノ下ニ一項ニ於キマシテ「實施權ヲ有スト書イテ置キ、其末項ニ「相當ノ補償金ヲ受ケルノ權利ヲ有スト云フ條文ニシテ居ル事柄ハ雙方ノ規定ガ相待ツテ此實施權ノ内容ヲ法律ニ於テ定メテアルモノデアアル、サウ云フ條件附ノ實施權ガ發生シテ居ルモノト解釋スルコトガ出來ルト考ヘマス

○男爵池田長康君 唯今ノ御説明デ大體ノ御趣旨ハ

分リマシタガ、此現在ノ狀況ニ於テモ此實施權ヲ實施スルト云フ場合ニ、其補償ヲ與ヘル、獎勵金ヲ與ヘルト云フ場合モアリマス、サウ致シマス却ッテ此規定ガ無クシテモ事實行ハレテ居ルノデアリマスカラ、此發明者ニ損害ヲ與ヘルト云フコトモ無カラウト思フ、此規定ガアリマスルト、詰リ權利ニナリマス、ソレカラ此規定ナシニ實際ニ行ハレテ居ル、若クハ獎勵ノ意味、又ソレニ關スル眞ノ補償ノ意味ニ依ッテ、法規ニ基イテ、無シニ德義ニ基イテ行ハレテ行クト云フノガ實際ノ狀況デアラウト考ヘルノデアリマス、寧ろ斯ウ致シマスルト此相當ノ補償金相當ト云フ事ニ付キマシテ、利害關係相反スルコトニナリマス、是ハ爭ノ原因ニナリマシテ、折角今マデハ其間ニ好イ習慣ガアリ、好イヤリ方デ寧ろ好意ノ下ニ行ハレテ居ッタモノガ、此相當ノ補償金ヲ受クル權利ヲ有スト云フ事柄ガ出テ來マスルト、ソレガ爲ニ平地ニ波瀾ガ起ルト云フコトハ無カラウカト心配スル、モウ一ツハ法律上ノコトデアリマスガ、是ハ補償金ヲ受クル權利ヲ有スト云フ事デアリマスガ、一體特許權ガ母體デアッテ實施權ハソレノ子ノヤウナ形デアリマスカラ、丁度甲乙ノ關係ヲナス如ク、私共ハ考ヘラレテナリマセヌ、一概ニ自分ノ主張ヲ申上ゲル事ハ考ヘナケレバナラヌガ、實施權ヲ有ストアリマスレバ無條件デ有シテ居ル様ニ私等ハ解釋スル、然ルニ實施權ヲ有シテ居ルガ、併シソレハ一方權利ヲ行フ場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ向ウヘヤラナケレバナラヌ、又其相手方ハ補償金ヲ受ケル處ノ權利ヲ持ッテ居ル、斯ウ書キマスルト、單純ニ申シマスルト此二ツノ點ニ於キマシテ法規上、聊カ矛盾ガアルヤウニ私ハ考ヘラレマス、尙此三十八條ノ末項ノ規定ノ理由如何、法制局ニ於テモ相當御審議ニナッタ事デアリマスカラ、無理ナコトハ無カラウ、是ハ特許權ト云フ事ト、ソレカラ出テ來タ處ノ實施權ト云フモノトノ關係ニナリマスカラ、私ノヤウニ單純ニヤルノデ無イカモ知レマセヌガ、此處ハ少シ「デリケート」ナ法律問題ト思ヒマスガ、チヨット私ハソコニ疑問ヲ有シテ居リマス、此點ニ付テ私ハ相變ラズ疑點ヲ有スルノデアルト云フコトヲ申シテ置ク

○政府委員(田中隆三君) 此相當ノ補償金ヲ與ヘルト云フコトガ法文ニ現ハサズシテ、所謂德義上ノ問題トシテ解釋ガ出來ルヤウナコトハ非常ニ希望スル點デアリマスケレドモ、御承知ノヤウナ時勢ニナッテ參リマシテ、ナカナカ權利義務ノ關係ガ喧マシクナッテ居ル、ソコデ之ヲ全體法文ノ上ニ現ハサズシテ德義上ノ雇人、雇主ノ關係デ解決スルト云フ主義ノ問題ハ別ナコトデアリマスケレドモ、假リニ其原案ノ如ク特別ノ契約ガアッテ、特許權ハ主人ノモノデアルト云フ契約ヲシテ、サウシテ一切ノ發明ニ關スル便宜ナリ、費用ナリ、而モ其雇人ヲ雇フ趣意ハ發明サセル爲ニ雇ウタ雇人タル場合ニ於テサヘ、主人ガ特許權ヲ貰ッテモ其發明シタ人ニ補償ヲヤラナケレバナラヌト云フコトヲ法律ニ規定スルノガ目的ナンデアリマス、是モ一體言フト、發明サセル爲ニ人ヲ雇ッテソレヲサセテ居ッタデアリマスカラ、發明ガ出來タナラバ其主人ノ發明ニ歸スルノガ當前デアル、ソレダノニモ拘ラズ矢張り發明シタ補償金ヲ得ル權利トシテ相當ノ補償ヲ與ヘヨト云フ原案ノ主義デアリマス、其原案ノ主義ガイカヌト云フナレバ別デアリマスガ、ソコマデ實ハ進ンデ居ル、ソレガ進ンダト云フト衆議院ニ於テソレト稍々趣異ニシタ場合、主人ガ己ハ特許ハ要ラナイ、若クハ其發明ヲ使フ特許權ハ御前ノ方ニヤッテ置クノダト云ウタ場合ニモ、實際問題トシテハ矢張り相當ノ補償ヲヤッタ方ガ宜イト思フ、多分主人ノ方ハ大仕掛ナ工場モ持ッテ居ル、資本ハ豐カデアル人デ、其發明ヲ實施スルニ付テ、非常ニ平易ナ地位ニ居ル、發明シタ雇人ハ發明權ハ貰ヘマスケレドモ、ソレヲ外國ニ持ッテ行ッテ金ニスルコトハ頗ル困難デアル、所謂空權ヲ握ルヤウナ處ガアリマス、矢張り相當ノ補償ヲ與ヘルト云ッタ方ガ前後ノ關係ガ穩當デハアルマイカ、唯權利トシテ此ノ如キ費用ヲ與ヘ、便宜ヲ與ヘ、發明サセル、且ツソノ發明サレタコトニ付テ申上ゲマシタヤウナ權利モアルト云フコトハ言ハズニ濟ムカラ穩當カモ知レマセヌ、御承知ノ通りニ所謂使用者ヲ特ニ保護スルト云フゴトヲ法制デ認メテ行クト云フ主義ヲ立テタ以上ハ、雙方共補償金ヲヤルト云ッタ方ガ宜クハアルマイ

カト云フ衆議院側ノ主張デアリマス、政府ニ於テモ同意シタノデアリマス

○男爵池田長康君 唯今ノ御説明デ如何ニモ御尤モデゴザイマスルガ、サウ云フ御方針デアレバ、寧ろ此雇主ノ方ニ實施權ヲ御與ヘニナル方ガ私ハ宜イヤウニ思ヒマス、補償金ヲスルト云フコトデアルナラバ寧ろ特許權ト同ジヤウニ實施權ヲ雇主ニ與ヘナイトシテ置ク方ガ實ハ明瞭ダ、實施權ヲ持ッテ居ッテ矢張り特許權ノ方ガ雇主ノ方ニハ無イ、ソコデ補償ノ點ニ於テハ同ジコトデアルト云フコトハ、私ハ一向ソコニ議論ガ一貫シテ居ラスト思フ、モウ一ツハ唯今御話ノヤウニ實際雇主ノ方ハ資金モ多イ、又發明者ハ資金モ少イガ、餘處ヘ持ッテ行クトガ出來ル、是ハ或ハ大キナ會社等ニ於テ好イ發明ダト云フト、サウ云フ人モアリマセウ、資本主又サウ云フ雇主ニ於キマシテハ、假令實際ハ行ハレナイニシテ見テモ、非常ニ脅威ヲ受ケル、私ノ考デアリマス、寧ろ是ハ相當ナル結果ヲ得タナラバ補償ヲヤラレル、普通ニ勤勉ノ勵ヲシテ賞與ヲ會社カラ貰ッテ居ル、斯ウ云フ者ハ實際ノ狀況ニ於テ變ラズニアッテ、寧ろ平氣デ斯ウシロアアシロト云フコトニ御差圖ニナル方ガ私ハ全體トシテ宜イ、斯ウ云フ考デアリマス

○松室致君 此第二項ノ場合デモ矢張り補償金ヲ與ヘルト云フ事柄ヲ衆議院デ加ヘタノデスナ

○政府委員(田中隆三君) ハイ

○松室致君 當局者ノ御考ヘハ第二項ノ場合ニ補償金ヲ與ヘナイ御積リデアリマシタカ

○政府委員(田中隆三君) 原案ハ左様デゴザイマシタ

○松室致君 ドウ云フ理由デアリマスカ

○政府委員(田中隆三君) 原案ノ方ノ趣意ハ所謂特許權ハ雇人勞働者ノ手ニ在ルカラ其權利ヲ持ッテ居リマシテ、權利ヲ一ツノ財產ト稱シテ權利ヲ持ッテ居ル大ケデ、既ニ報酬ヲ受ケテ居ルコトガ十分アリマス、誰カ他ノ資本家ヲ見附ケテソレヲ實施シテ利益ノ分配ニ與カル、或ハ權利ヲ他ニ賣ッテ報酬ヲ得ルカ全ク勞働者ノ手ニ權利ガアリマスカラ、ソレデ權利ガ有ルト云フコトデモウ補償ガアルカラ、跡ハ報酬

ヲヤラナイ、斯ウ云フ立方ニナッテ居ル原案ハ... 處
ガ衆議院ニ於テハ其權利ハ成程權利トシテアルケレ
ドモ、其職工ノ持ッテ居ル權利ト云フモノハ、純然タ
ル單純ノ權利デアラナラバソレハ金ニモナラウ、利
益モ外デ生ミ出ス道モアラウケレドモ、ソレハ主人、
其實施權ヲ持ッテ居ル大工場主ガ居ルカラ、其他ノ人
ハ買ヒサウモ無イ、減多ニ金ニナルマイ、ソレダカラ
シテ矢張り此場合ニ於テモ相當補償ヲ與ヘルト云ッ
タ方ガ宜クハアルマイカ、而シテ相當補償ト云フコ
トハ無論今日マデ雇人、發明シタ人ニ對シテ種々ノ
補償ヲ與ヘ、便宜ヲ與ヘラレマシタト云フ關係ヲ斟
酌サレテ、所謂相當ノ補償ガ出ル譯デアリマスカラ、
工場主ノ方デモ別ニソレガ爲ニ迷惑スルコトモナカ
ラウ、大體十四條ト云フモノハ大ニ雇人労働者ヲ保
護スル趣旨デ出来テ居ル、ソレデアルカラ矢張り此
場合ニ補償ヲ與ヘル方ガ宜イデヤ無イカ、ト云フ趣
旨デアリマス、原案デハ單純ニ權利ヲ持ッテ居ルノ
カラ、其權利ハ補償ニ代リ得ルモノト見タノデス

○松室致君 衆議院ノ修正ノ趣意ニ付テハ了解シテ
居リマスガ、原案ノ趣意ハチヨット分リ兼ねルノハ特
許權ヲ發明者ノ名前ニスルコト、實施權ヲ會社ノ方
デ持ッテ居ルバ所謂有名無實ノ權利デアアル、自分ノ名
前ニシテモ何ニモ益スル所ハナイ、ダカラ矢張りソ
レニ付テ毫モ補償ヲ得ナイナラバ罷メテカラ登録ス
ルト云フコトノ弊ニ陷ルコトハナカラウカ

○政府委員(田中隆三君) 御尤モデアリマスガ、若
シモ此工場主ノ方ニ實施權ハゴザイマスケレドモ、
其實施權ヲ讓リ受ケルナリ何ナリシテ其權利ヲ行フ
人ガ外ニ出来ル場合モ無論アリマス、デ實施權ト双
方相並ンデ外ノ人ガ今度特許權ヲ行フコトモ出ル、
幸ニ若シ資本家ガ出来テ參リマシタラバ...

○松室致君 併ナガラ會社ガ研究ヲサシテ發明ガ出
來タト假定シテ、其會社ガ實施權ヲ持ッテ居ルト云フ
以上ハ、其權利ヲ外ノ人ニ發明者ガ讓渡スコトハ出
來テモ矢張り有名無實ナル空ッポナ權利ダカラ買手
ハアルマイト思ヒマス

○政府委員(田中隆三君) 其點デアリマス、衆議院
ノ修正ノ起ツテ趣意ハ其處ニアリマス、權利ハ權利ダ

ケレドモドウシテモ多クハ餘リ有望デナイ權利ニナ
ッテシマフ、茲ニ大キナ工場主ガ居ッテ常ニ設備マデ
ヤッテ居ル人ガ居ルノダガ、尙ホ外ニヤルト云フ事ハ
實際問題トシテハ殆ドアルマイ、ソレナラバ此場合
ニ於テモ矢張り補償ヲ與ヘタ方ガ宜イデヤナイカ、
其方ガ實際ニ適シハセヌカト云フ趣意デアリマス、
如何ニモ其實際問題トシテサウ云フ疑問ハ大イニ道
理アルコトト認メマシタ

○松室致君 同意シマシタカ
○政府委員(田中隆三君) ハイ
○木場貞長君 是ハ特許權ヲ會社ニ全部承繼セシム
ル場合ハ後ニ何ニモ殘ルモノガナイカラシテ、其權
ハアッテモ空デアアル、ソレダカラシテ修正ノ方デ行ク
ト特許權ノ性質トシテ實施スルコトハ實施シテモ、
又外ノ所ニ其特許權ヲ繰廻ハシガ出来ルナラ補償ハ
要ラナイ、斯ウ云フコトガ出来タ譯デアリマセウト
思ヒマス、此相當ノ補償金ト云フコトハ他日紛擾ヲ
來シテ労働者資本主双方ノ間ニ非常ナ面倒ヲ起ス事
ハアリマセヌカ、第一發明者カラ云フト何時デモ幾
分カ誇大シテ其效能ヲ申出ル、從ッテ其補償金ニ付テ
ハ資本家ノ考ト違ッテ居ル、オマケニ昨今御承知ノ點
デ本人ガ迫ルノミナラズ色々組合トカ何トカ云フモ
ノデ尻押ヲスル、斯ノ如キ紛擾ノ虞ガアリマス、大キ
ナ混雜ヲ起シハセヌカと思フ、ソコデ又所謂相當ト
云フ金額ヲバ他ノ方面カラ見テ其實施權ヲソレヲ實
行スルニ付テ得ル所ノ利益ノ對價ト云フヤウニ見
テ、所謂相當ト云フコトニナレバ使用スル者ノ有利
ニスルダケノ權利ハ認メルケレドモ、ソレ以外自分
ノ工場ニ來テ其時間内ニ色々ノ研究ヲスル、ソレダ
ケマア製作ニ付テハ多少ノ改良ガ出来ルカモ知レ
ヌ、甚シキニ至ッテハ其處ニアル石炭ヲ使ッテ拵ヘタ
モノヲ利用スルトカ、機械ヲ利用スルトカ種々ノ事
ガアルノダカラ、自分達ガ斯様ニシテ居ナケレバナ
ラヌト云フ譯ニナルダラウト思ヒマス、資本主ハ其
儘ニシテ置イテ矢張り犧牲ヲ拂ッテ居ル、其犧牲ニ付
テ唯出来タモノヲ使フダケノ權利ヲ持ッテ居ル、其仕
事ヲ發明シタ人ノ意思ガ合致スルコトニ行カネバナ
ラヌト云フモノデ得ルコトガ甚ダ乏シイ、ドウシテ

モ此場合ニ於テハ相當ト云フヨリハ他ノ人ニ之
ヲ賣却スルノ實施權ヲ他ノ人ニ讓ル、讓ラヌ場合ニ
ハ安ク補償シナケレバ補償スルコトシテモ資本主ハ損
害ヲ被ラネバナリマセヌ、ドウモ特許權ノコトハ實
施權ヲ認メル以上或ハ寧ロ補償ト云フコトヲ認メ
ズニ賞與ト云フヤウナ形デ行クト云フコトモ、ソ
レ相當ニ行ハレルモノデアアル、寧ロ是ハ他日ノ紛
議ヲ起スコトラバ豫メ豫防スルモノデナイカモ知レ
マセヌ

○政府委員(田中隆三君) 御尤ノ御尋ト存ジマス、
併シ此相當ノト云フ事ヲ茲ニ書キマシタ趣意ハ、實
ハ今迄ノ雇主ト雇人トノ關係、特ニ費用ヲ使ッタリ便
宜ヲ與ヘタリシタ各般ノ事情ヲ斟酌セシムル上ニ、
他ニ賣ルヨリハ寧ロ安イ方ニ歸スルト云フコトガ
寧ロ相當デアルト見テ、ソコデ相當ト云フ形容詞ヲ
特ニ加ヘタ譯デアリマスケレドモ、兎モ角モ此爭ガ
纏ラナケレバ是ハ結局民事裁判ニ依ラナケレバナラ
ヌ問題デゴザイマス、將來ニ於テ紛議ガ起リ得ルコ
トガアルトハ覺悟シナケレバナラヌト存ジテ居リマ
ス、サウシテ此補償ノ問題ヲ主義ト致シマシテ全部
ヤラレルト云フコトデアレバ宜シウゴザイマスケレ
ドモ、既ニ前段ニ原案ノ如ク補償ヲ認メテ權利ノ補
償ヲスルモノカト云フト、初カラチャント約束シテ
アッテ御前ニ斯ウ云フコトヲ委任スル、此發明ヲシテ
呉レ費用ハ己ノ方デ出ス、手當モ出ス、發明シタナラ
バ其特許權ハ己ノ方デ貰フゾ、チャント約束ガ出来
テ居ッテ、サウシテ其雇主ノ方ガ特許ヲ取ッテモ、其場
合デモ補償ヲ與ヘヨト云フ事ガ、其處マデ進ンデ居
ルノデアリマスカラ、ドウモ衆議院ノ修正ニ何處マ
デモ反對スルト云フ程ナ強イ根據ハナイト認メテ居
ルノデアリマス

○木場貞長君 特許權ヲ會社ノ方デ資本主ノ方ニ設
置スル場合ニハ發明者ハ全ク崩レテシモウ、却テ後
ノ場合ニ向ッテ分權シテ會社ガ貰ハネバナラヌ、特許
權者ハ何レノ場所ニ行ッテ分權シ様ト自由デアリマ
ス、其發明ガ相當ノ效力アルモノナラバ是ハ誰モス
ルシ、又其補償シテ事業ヲ起ス事モ出来ル、却テ會社
ハ使ッテ呉レテ資本主ノ方デ使ッテ呉レテ、其者ノ役

ニ立ツヨリハ、分レバ外ノ資本主ノ方ニ附ク位ノモ
ノデアリマス、決シテ他ノ會社ニ使用權ヲ讓ツテモ自
分ハ何等得ルコトナシト云フ筋合ノモノデナカラウ
ト思ヒマス

○政府委員(田中隆三君) 其點ハ御尤デアリマス
ガ、其點ニ於テ區別ガゴザイマス、唯衆議院ノ見ル所
ハ實際問題トシテドウモ一方ニ於テ實施權ハ大且那
ニ附イテ居ルカラ、ソレヲ又人ガ資本主トナツテ職工
カラ或權利ヲ讓リ受ケタリスル場合ハ、通常ノ場合
ニ於テハ空權ニ過ギナイ、ソレナラバ寧ロ相當ナ補
償ヲシタ方ガ宜イト云フコトニナツタデアリマス

○男爵池田長康君 モウ一言申シマスガ、此實際問
題トシテ且那ガ實施權ヲ持ッテ居レバ其外ヘ持ッテ行
クコトハ出來ヌト云フ御話デアリマス、併シソレハ
或場合ハサウデアリマセウケレドモ、サウデナイ場
合ニハ決シテサウデアアルマイ、是ハ私自身ニ多少實
驗モアリマス、愈々他ニ持ッテ行クナラバヨリ大キナ
會社デ其實施權ヲ持ッテ有效ニ働イテヤル、斯ウ云フ
權利ヲ持ッテ行クナラバ喜ンデ受ケル、ガカラ必ズ
シモ今次官ノ御考ノヤウニサウ今外ヘ行ッテハイケ
ヌト、斯ウ云フヤウナ御斷定デハチト違フカモ知レ
マセヌ

○政府委員(中松眞卿君) 御尤デアリマスガ、此相
當ノ補償金ヲ受ケル權利ヲ有スト云フコトヲ書カウ
ト云フコトニ至リマシタ一ノ動機ト申シマス、ハ、
固ヨリ業務範圍ノ事柄デアリ且又任意ニ屬セシメタ
ル事柄デアリマスカラ、而シテ尙ホ其上ニソレダケ
ノ事項ガ揃ウテ特許ヲ受ケル權利、又特許權ヲ雇主
ノ方ニ讓レ、斯ウ云フ契約ガアレバ固ヨリ相當ノ補
償ハ使用者ノ方カラ拂ハレテ居ルト見ナケレバナラ
ヌ、併ナガラ其時ニ其補償ト出來上ツタ所ノ發明トヲ
比較イタシマスルト、頗ル不釣合ノモノガ起リハシ
マイカ、其報酬ニ對シテ非常ナ有力ナ發明ガ出來マ
シタ時ニ、ドウシテモ其儘今マデノ通りト云フ事デ
知ラヌ顔ヲシテ居ルト云フコトハ發明者ニ對シマシ
テ酷デアラウ、左様ナ議論ガ起リマスカラ、其結果ト
シテ茲ニ相當ナ補償金ヲ贈ルト云フコトヲ規定シテ
置ク必要ガアラウト云フコトデアリマシタノガ一ノ

動機デアリマス、サウ致シマス、一方ニ於キマシテ
假令業務範圍ノ事柄デアリ、又任務ニ屬シテ居ツタ事
柄デアルト雖モ、其業務範圍デアツテ且ツ任務ニ屬シ
テ居ツタト云フコトデアリマスレバ、時間モ材料モ又
或場合ニ於テ相當ノ費用モ會社カラ拂ッテ居ルモノ
デアリマスカラ、原案ハ實ハソレニ依テ實施權ヲ與
ヘルト云フコトデ相當ナ「バランス」ハ出來テ居ルト
考ヘマス、併ナガラ其發明ハヨリ以上ニ有效デア
ル、斯ウ云フ場合ニ於キマシテ一方ニ權利ガ全然移リマ
シタ場合ニ、尙ホ相當ナ補償金ヲ與ヘルト云フコト
ニスルコトガ、其今マデノ雇主ノ方ニ拂ヒマシタモ
ノニ比例シテ非常ニ安イモノデアル考ガ起キマセウ
カラ、尙ホ相當ナ補償金ヲヤルト云フコトガ、相當
ナコトデアラウカト云フ、斯ウ云フヤウナ議論モア
リマス

○副委員長(和田彦次郎君) 如何デゴザイマセウ、
大體ノ御質問ノ御趣意ヲ御繰返シニナツテ御答辯ニ
ナツテ居ルヤウデアリマス、速記者ノ時間ノ都合モゴ
ザイマスカラ、此條項ハ此處デ御止メニナリマシテ
ハ、御異議ゴザイマセウケレバ此十四條ノ條項ハ
是デ止メマセウ

○木場貞長君 モウ一ツ四十三條ノ末項「特許權ノ
存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下
之ヲ延長スルコトヲ得」トゴザイマスルガ、是ハ其特
許權者ガ願ヒサヘスレバ必ズ許スコトニナルノデア
リマスルカ、又ハ特許局ノ自由ヲ以テ之ヲ許否シ、或
ハ年數ニ付テ裁量ヲスルノデアリマス

○政府委員(中松眞卿君) 無論特許局ノ見ル所ニ
依テ一應調ベテ致シマシタ結果トシテ、是ハ全然重
要ナル發明デナイト認メタ時ニハ却下イタシマス、
又重要ナル發明デアリマシタモ、既ニ今日マデ十五
箇年間相當ノ利益ヲ擧ゲテ居ツタト認メタ時ニハ矢
張り許サナイ積リデアリマス、重要ナル發明デア
ル、併ナガラソレニ相當ナ報酬ガ得ラレタ、斯ウ云フコ
トガ明瞭ニ分リマシタ時ニ、然ラバ何年間ノ延長ヲ
許スカト云フコトハ是亦裁量ノ結果、或ハ三年許ス
コトモアリマセウシ、或ハ七年トシ或ハ最長期十年
マデ許スカト云フコトモ矢張り、其事件事件ニ依テ

決定スルコトデアリマス

○木場貞長君 特許ニハ何等ノ弊ヲ生ゼズ、又神ノ
如キ判斷ガ出來ルモノナラバ、ソレハ一應尤モト思
フデアリマスケレドモ、餘リニ自由ナ酌量ガ廣ガリ
過ギルト、多クノコトデ又長イ間ニソナ弊ガ生ジ
易イノデハ無イカ、縱ンバ其弊ハ事實ニ於テ出スト
假リニ致シタモ、箇々ノ場合ニ於テ非常ニ疑ヲ招ク
條項デアツテ、頻ニ其運動ヲシテ延長ヲ希望スルコト
ガアリハシナイカ、殊ニ利益ノ大キイモノニ付テ今
ノ御説明ノ方カラ見、十分ノ償ヒヲ取ツタ物ニ付テ
ハ、却ッテ延長スレバ利益ガ大キイカラ諸種ノ惡弊モ
生ジサウデハ無イカ、是ハ稅モ拂ッテ居ルカラ御許シ
ニナルナラバ願ヒ次第許ス、許サヌナラバ許サヌト
キチントシタ方ガ宜シイデアリマセヌカ

○政府委員(中松眞卿君) 誠ニ色々ナ御心配御尤モ
デゴザイマスガ、是ハ前ニ特許局ト申上ゲマシタガ、
チヨット言ヒ誤リマシタ、農商務大臣ガ處分ニナツテ
居リマス現行ノ勅令デハ、實際上斯ウ云フ申請ガ
參リマス、六箇月以前ニ必ズ申請ヲシロトナツテ居
リマス、非常ニ緻密ナ審査ヲシナケレバナラヌト認
メテ六箇月ノ餘裕ガアル様ニシテ居リマス、其六箇
月前ニ申請ヲ致シマス、今度ハ特許局デ、主査ノ調
査委員ヲ二名出シテ、サウシテ法律家ト其專門技術
家ヲ任命致シマシテ、今日ニ於キマシテ實際上三名
ヲ任命致シマス、其三名ノ者ガ先ヅ下調ヲ致シマス、
色々ナル計算書、帳面ナリ從來ノ利益關係ヲバ明瞭
ナラシメ得ル書類ニ徴シマシタ色々、調べマシタ結果
トシテ、茲ニ意見書ヲ作りマス、之ニ對シテ局長ガ更
ニ意見ヲ加ヘテサウシテ農商務省內ニ設ケラレテ居
リ且勅令ニ於テ保障サレテ居ル調査委員ニ掛ケルノ
デアリマス、サウシテ調査委員ノ審査ヲ經マシタ上
デ更ニ農商務大臣ノ決裁ヲ受クルコトニナツテ居リ
マス、唯色々ナ疑惑ノ起ルト云フコトモ一面ニ於
キマシテハ道理ノアル御言葉ダラウトハ考ヘマス
ガ、其結果トシテ之ヲ五年ナラ五年ト劃一ニスルト
云フコトハドウデアラウカト申スト、其發明ノ性質
又其發明者ノ今日マデ努力シタ結果トシテ得マシタ

又其發明者ノ今日マデ努力シタ結果トシテ得マシタ

報酬ノ高如何ト云フコトハ此問題ヲ決スル最大ノ理由ニナリテアリマスカラ、理窟カラ考ヘマスドモ、劃一ト云フ譯ニモ參ラヌカト思ヒマス、ソレデ現行法ニ於テ三年以上十年以下ノ間ニ於テ自由ニ裁量シ得ル餘地ヲ存シタノデアリマス

○木場貞長君 私人現行ノ御方針ニ付テ疑ヲ懷クノデアリマス、慎重ナル調査ヲナサルコト云フコトデアリマスガ、ソレダケ慎重ニシテ何等益ガアルカ、ソレカラ生ズル弊害ニ至リマシテハ、私ハ事實弊害アリトハ申サヌデアリマスケレドモ、隨分世間デモ色々ナ事ヲ言ッテ居ル、隨分耳ニ這入ル、運動シマス、ドウシテモ運動シナクチャイカヌ品物ヲ持ッテ運動ニ行ク、或ハ有力ナル人ヲ以テ行ク、種々ナ事ヲシテ能ク御頼合ヲスルト云フコトヲ人ガ能ク申スカノヤウニ思ヒマス、ソレガ果シテ御決定ノ上ニ影響ヲ及ボスカドウカハ知ラヌケレドモ、専ラ民間デハサウ云フコトヲ願フガ、ソナナコトガ無イト云フコトハ承知シテ居ルガ、本人ノ願ヒノ儘ニ一定ノ時期御許シシナツタ處デ差支ナイヂヤ無イカ、利益ノ關係ト言ヘバ十五年ヲ待タヌデモ十年デモ五年デモ取返シガ附クカモ知レマセヌ、強チ儲ケト年限ト直接サウ關係アル次第デモアルマイ

○政府委員 田中隆三君 如何ニモ御尤モデアリマスガ、大體特許ト云フコトハ申ス迄モナク、已ムヲ得ズシテ與ヘタ制度デアッテ、出來ルナラバ一般ノ人ニ誰デモ早ク其ノ特許ガ下ルヤウニ實施サセル事ニシテ、特許權ヲ無クシタ方ガ宜イ譯デアリマス、併ナガラ其ノ發明ヲ獎勵スルト云フ意味カラ、ドウシテモ斯ウ云フ特許ヲ與ヘナケレバナラヌト云フ事デ與ヘタ譯デアリマス、而シテ其ノ特權ノ中ノ頗ル社會ニ大ナル利益ヲ與ヘル可キ有益ナル特許ガ不幸ニシテ相當ノ償ヒヲ得ル事ガ出來ナカッタト云フ事ハ、國家ノ上ニ於テ甚ダ遺憾トスル點デアリマス、有益ナル特許ニシテ利益ヲ受ケル事ガ出來ナカッタ場合、斯ウ云フ立方ニシテヤッテ居ル譯デアリマス、而シテ世間デ喧シク申スノハ私ガ思フニハ大抵許サナイカラ實ハ喧シイ、能ク人ガ願ッテ來ル、年限ガ來ル、併シナガラ許サナイ、其處デ運動デモスルトカ頼ミデモシナケ

レバ許可ヲ得ラヌヤウナ事ガアル、即チ自分ニ許可ガナイ爲メニ苦情ヲ言フ、現ニ先日モ申シマシタ様ニ今日迄特許實施以來許可ヲシマシタ物ハ僅カ十九件シカナイ、其期限ハ三年カラ十年デアリマスケレドモ、夫レヲ今此處デ平均致シマス、一個ノ特許權延長年限ハ平均六年ニシカナッテ居リマセヌ、サウ云フ次第デアリマシテ、ドウモ今日迄ノ許否ニ付テモ不公平ナ事ハアツタ様ニモ見エマセヌ、是ガ根本的ニ止メタ方ガ宜イコト云フ問題ナラバ別デアリマシガ、所謂世間デ斯ウ云フ苦情ニ就テハ私ハ根據ノナイ苦情デアルト思ッテ居リマス

○木場貞長君 其ノ僅カ十九件ト云フ内容ハドウカ知リマセヌガ、其ノ方面カラ無論苦情ノ出ヤウ筈ハナイ、ソナナ澤山出ルノヲ皆拒否シテ僅カ十九件位許ス爲メニ果シテ此必要ガアルカ、許サヌナラバ却ッテ國家ノ一面カラ利益ガアルカモ知レマセヌ、一般的ニ其ノ利益ニ均霑スル事ニナル、成程夫レハ手數ガ懸ルトカ色々弊害ノ虞レガアルト云フ點ニ於テ國家ノ利益ニナルカモ知レマセヌガ、僅カ十九件位ノ事ノ爲メニ斯様ナ物ヲ設ケテ其ノ十九件ガ果シテドンナ物デアアルカ、夫レハ時ガアツタラ申シマスガ今ハ略シマスガ、果シテ萬人ガ見テ當然ナモノダト云フモノガアルカドウカ、是モ問題ダラウト思ヒマス、十九件ガ十九件當然ト見ズニ何事デモサウデアリマス、拒絕サレタ部分ト這入ッタ部分トノ境ハ餘程困難デアリマス、許サヌナラバ許サヌ、許スナラバ許スデ「フレキシブル」ニ二年ナリ五年ナリ許スト云フ事ニシ、左モナケレバ許サヌト云フ事ニシタラバドウカト思フ

○副委員長(和田彦次郎君) 如何デゴザイマセウ、其ノ以上ハ御意見トナリマスカラ、速記ノ時間モ段々迫ッテ參リマスカラ、特許ヲ要スルト云フ事ニナリマシタナラバ、商標ニ關スル問題ガアリマス、是ハ過日委員會ノ席ニ於キマシテ今井五介君ヨリ生絲ノ商標ニ就テ強ク論セラレテ居タ、其ノ點ニ付テ當局者ニ一ツ伺ヒタイ、此ノ商標ヲ登録シテアル物ニ御許シニナッテ居タ、其ノ商品ヲ製造シタ者ガ登録シタ商標ヲ附シテ横濱ヘ出ス、夫レヲ九デ問屋ノ方デ

ハ無視シテ了ッテ外ノ商標ヲ附替ヘテ出ス、甚ダ困ル事ハ亞米利加ニ行ッテ實際ノ模様ヲ調査シタ結果カラ見テモ斯ウ云フ商標ヲ附シタ製造家ガ日本ニアル事ヲ聞カナイト云フ様ニ、亞米利加ノ判決ニモ見エテ居ルト言フ事デアリマス、併シ是ニ付テハ政府委員ノ御説明ニナツタ處デハ、三越ニ於テ賣買スル物ハ盡ク三越デ製造スル物デハナイ、多數ノ製造者ガ製造シタ物ヲ一度三越ノ店ニ來レバ、其ノ商標ヲ剝ッテ了ッテ、更ニ三越ノ商標ヲ附シテ賣買シテ居ル實例モアル云々ト云フ御説明ヲ承ッタノデアリマスガ、サウ云フ點モ確カニアル事ヲ私共ハ認メルノデアリマス、ケレドモ此ノ商標法ノ内ニ商標登録者ノ商標ヲ用ヒタル商品製造品ニモ商標ヲ勝手ニ取ル事ハ出來ナイ、是ヲ除イテ他ノ商標ヲ附セムトスル時ハ本人ノ承諾ヲ求ム可シト云フ意味ノ條項ヲ一條置ク事ニ致シマスレバ、當局者ノ御説明ニナル場合モ夫レデ出來ル、又委員ノ一人カラ主張シマシタ處ノ意思モ貫徹スル様ニ思ヒマスガ、サウ云フ事ヲ一條入レルト云フ事ニシマシタ場合、當局ハ如何御考ヘデゴザイマスカ

○政府委員(中松眞卿君) 此問題ハ成程色々説明ヲ承リマス、御心配モ御尤モフヤウニ考ヘマスガ、前回ニモ次官カラシテ實際問題トシテ隨分困ルコトガアルダラウト云フコトヲ申上ゲマシタ、承諾ヲ經テ初メテ除去シ得ルト云フコトニ致シマシテモ、其商標ノ持主ガ何人デアアルカト云フコトガ直チニ分リマセヌト、此承諾ヲ經ルト云フ手續モ隨分煩雜スルコトト思ヒマス、生産者ノ氏名、住所ヲ明記シテアル場合ニハ宜シウゴザイマスガ、唯商標トナッテ居ル時ニ於テハ一々許諾ヲ經ナケレバ剝ガスコトハ出來ナイト云フコトニナルデアラウ、ソレカラ又必ズシモ今ノ商標ヲ附ケテ置カクチャナラヌト致シマシテモ、唯今實際問題ニナッテ居ル所ノ生絲ノ如キ商品ハ横濱ニ於テ除去サレタ困ルト申シマスガ、横濱デ除去シナクテモ亞米利加デ除去サレタナラバモウ仕方ガ無い、又船中ニ於テ除去シテ他ノ物ト貼替ヘラレタナラバ是亦已ムヲ得ナイノデ、實際取締上カラ申シマスルトチヨット困ル事ガ起ッテ實行ガ困難デ

ハ無イカト思ヒマス、ソレカラ商標ノ立方ト云フモ

ガ或商標ヲ登録シテ其商標ノ損害者ヲ保護スルト云フ方面カラ出テ居ル、ソレデ既ニ或商標ヲ登録イタ

シマシテ其商標ヲ附シテ商品ヲ販賣ヲ致シマスレバ既ニ販賣ヲスル處ノ人ハ商標使用目的ヲ一時達シテ

居ルノデアリマス、ソレヲ買受マシタ人ガ更ニ自分ガ之ハ自分ガ取扱ッタ品物デアルカラ確實デアル、自

分ガ是ハ販賣スル物デアルカラ品質モ十分精選シテ居ルト云フ事ヲ表明致シマスル爲ニ、更ニ自己ノ商

標ヲ貼ルト云フコトハドウモ商標法上拒ムコトガ出

来ヌ問題デアラウカト思ヒマス、多クノ國ノ立法例ヲ調べテモ商標問題マデモ立入ッテ居ル國ハ見當ラ

ヌヤウデアリマス、唯西班牙カ何カガ商標法ノ問題ニ觸レテ居ルカト思ハレルヤウナ立法例ヲ見當リマ

シタガ、併シ多クノ國ハ此不正競争ト云フモノデサウ云フ場合ニ逢フ時ニ保護シテ居リマス、外國ノ不

正競争ノ取締ト云フコトハ一般不正競争ヲ取締ルト云フコトニ依ヨリマシテ行ハレテ居リマス、ソレカ

ラ漸次發達シテ商品ノ混同ヲ防グ處ノ問題等ニ付テ、商標ノ登録ト云フ制度ヲ以テ保護シヤウトシタ

ノガ商標法デアリマス、日本ハ既ニ出來上ッタ商標法丈ケ先キニ實行シテ、一般ノ取締ハ是カラ考ヘラレ

ヤウトスル逆ノ狀況ニアルノデアリマス、唯今ノ如キ問題ハ普通行政法ノ問題トシテ研究セラルベキ事

柄ト思ヒマス、西班牙ノ方デモサウ云フ頃デ考ヘテ居ルヤウニ見受ケマス

ツ其意見ヲ……

○木場貞長君 宜シウゴザイマス

○副委員長(和田彦次郎君) ソレデ今一ツ商標法ノ中ノ容器包裝デアリマスカ

○男爵池田長康君 三十四條ノ第一第二ニ容器包裝ト云フコトガ書イテナイガ、是ハ此中ニ嵌ルヤ否ヤト云フコトニ付テ疑問ヲ持ッテ居リマス、此點ニ付キ

マシテ如何様ナ御考デアリマスカ、御言明ヲ得テ置キタイ

○政府委員(中松眞卿君) 御答致シマス現行法ニ容器包裝ト云フ字ヲ使ッテ居リマス、併シ茲ニ省キマシタノハ無論包含スル趣旨デゴザイマシテ結局他人ノ

登録商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルト云フ譯ニナリマス、特ニ似セタル容器包裝デアリマス、類似ノ包裝ヲシタルトキト書カナクテモ此中ニ包含サレ

タモノト考ヘテ掲ゲナカッタ、無論包含シテ居リマス

○男爵池田長康君 モウ一ツ伺ヒマス、第二條ノ第一項ノソレカラ第十五條、茲ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルトアリマスガ、是ト類別ト

ノ關係ヲ御言明ヲ願ヒマス

○政府委員(中松眞卿君) 類別ハ現在ニ於テ六十

七類ニ各種ノ商品ヲ分ケマスガ、大體ニ於キマシテ、大體ノ標準トシテ品質ガ惡イトカ商標ガ相似タモ

ノ、品質用途ト云フコトヲ標準ニ致シテ、無論似寄ッタコトヲ趣旨ニ致シマスガ、併ナガラ各種ノ區分デ

分ルモノハ必要以上ノ商品ニ向ッテ願ッテ來ルコトヲ防ギ、實際ニ必要トスル商品ニ願ハサセマシテ、不

必要ナ物マデ取ラウト云フノ防グ效能ガアルト認メタノデアリマス、是ハ檢査上ノ便宜ノ方カラ來テ居ル考デアリマス、隨ッテ類別ハ違ヒマシテモ或物ニ付キマシテハ其實、同一或ハ類似ノ商品ナリト認定ヲシナケレバナラス問題ガ、時々商標法ノ上ニ於テハ起ッテ來マス、茲ニ二條十一項又十五條商品ノ誤認又ハ混同ヲ生ゼシムル虞アリト云フ中ニハ必ズシモ類別ガ同一デアルト云フ時ノ種類バカリデ無イ、類別ガ違ッテ居ッテモ、尙類似商品トシテ誤認ヲ來スモノト認メナケレバナラス物モアルト、斯ウ云フ考

ラシテ居リマス

○木場貞長君 此誤認又ハ混同ヲ生ゼシムル虞アルモノト云フコトハドウ云フ意味ニナリマスカ、私ハ問題カト思ヒマスガ御辯明ヲ願ヒタイ、曾テ商標ヲ得テ居ッタル然ルニ其後出來タ商標、或ハ同時ニ出來タ商標ノ方ガ段々トソノ商標下ニ販賣スル者ガ多ク

ナッテ來テ盛ンニナッテ來タ、ソノ結果トシテ微々トシテ振ハヌ、前カラ或ハ當時カラ存シテ居ルモノヲ取消サレルヤウナコトガ有ルヤウデアルト解釋スル

人ガアリマスガ、サウ云フコトハ無イコトト思ヒマスガ、現ニ受ケテ居ッテ、他ノモノガ、繁昌シタカラト

言ッテ取消サレルコトハ無イト思ヒマスガ、如何

○政府委員(中松眞卿君) 此二條ノ十一項ニ違反スルヤ否ヤト云フ問題ハ主トシテ是ハ登録ノ時ヲ考ヘ

タノデアリマスカラ、登録ノ時ニサウ云フ事實ガ無カッタト致シマスレバ、曾テ登録ヲ受ケマシタ處ノ人

ノ商標ガ、此規定ニ違反スルト云フ理由ヲ以テ取消サレルコトハ無イト心得マス

○木場貞長君 十五條ガアルカラ或ハサウ云フ疑ヲ出シテ居ルノカモ知レマセ

○政府委員(中松眞卿君) 御答致シマス、十五條ノ方ハ商標トシテ登録ヲ受ケマシタ商標ヲ、其儘使ッテ居ル時ニハ何モ問題ニナラス、他人ノ登録ヲ似セテ態々附記變更シテ混同ヲ來スト云フ考デアリマス

○木場貞長君 登録ニ似タヤウナモノガ二ツ出テ來テモ、他ノ者ノ爲ニ、ソノ者ガ甲ノ者ノ商標ヲ取消サレルコトハ無イ譯デセウナ

○政府委員(中松眞卿君) ソレハ唯今申上ゲタヤウナ甲ノ登録ト同時ニサウ云フ事實ガ發生シナケレバ取消サレルモノデヤ無イト思ヒマス

○副委員長(和田彦次郎君) 其他ニ付キマシテ速記ヲ要スル御質問ガゴザイマスルナラバ、此際急イデ願ヒマス

○男爵池田長康君 辨理士法案ノ第十條デゴザイマスガ辨理士會ハ辨理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス「トアリマスガ、是ハ醫師會又ハ辯護士會等ニ於テモ矢張り斯ウ云フ文字ヲ用ヒマス

午後二時二十五分

出席者左ノ如シ

委員長 侯爵細川 護立君
副委員長 和田 彦次郎君
委員 子爵片桐 貞央君
松室 致君
男爵池田 長康君

政府委員

農商務次官 田中 隆三君
特許局長 宮内 國太郎君
特許局事務官 馬場 顯一君
中松 眞卿君

○政府委員(中松眞卿君) 御答致シマス、辯護士會ニハ斯ウ云フ目的デハ規定シテ居リマセヌ、會則其他沿革等アリマスカラ……醫師會ノコトハ私ハ見テ居リマセヌガ業務ノ發達ト云フ文字ニ付テ、以前法制局デ研究致シマシタ、最初特許出願前ノ意匠商標ノ發達ヲ圖ルト云フ風ニ書キマシタコトモアリマス、又引括メテ所有權ノ發達ヲ圖ルト云フ風ニ書カウトシタコトモアリマス、併ナガラ主トシテ職務ノ方面カラ書キタイト云フ希望カラ斯ウ云フ文字ヲ使ヒマシタ、業務ト云フ言葉ガ聊カ語弊ガアルヤウデアリマスガ、先ヅ大體辨理士ハ辯護士ト等シク公職デアルト認メマシタ結果、辯護士業務ノ發達即チ公職ノ發達デアルトスレバ是デ必ズシモ惡イコトモ無イデヤ無イカト云フコトカラ、遂ニ業務ノ發達ト云フ言葉ヲ使ヒマシタ

○木場貞長君 時間ガアリマセヌカラ、唯チヨット觸レル丈ケニ伺ツテ置キマス、此度ノ法律案ニ登錄料ハ何程増額ニナツテ居リマスルカ、保護獎勵ノ性質上カラ云フト、モウ少シ之ヲ減ズルヤウナコトニナリマシテハ著シク差支ガアリマセウカ、ト云フコトガイツ、ソレカラ手數ガ非常ニ掛カルヤウニナツテ居ルカラ出來ルナラバ、モウ少シ簡單ナ方ガ、保護スルト云フ主義ニ適ヒハ致シマセヌカ御所見ヲ伺ヒタイ

○政府委員(田中隆三君) 御答致シマスガ其登錄料ヲ今少シ減少シテハ如何ト云フコトニ付キマシテハ、無論減少スルコトニ付テ異議ガアル譯ハ無イノデコザイマス、少クテ濟ムコトハ結構デアリマスガ、大體多年ヤリ來ツテ居ル登錄料ト云フモノヲ土臺ト致シマシテ、總テ金ノ基本ガ動イテ參リマシタカラ、割合ニ應ジテ今度之ヲ増額致シマシタ、而シテ此増額ノ下ニ、總テ豫算計畫ヲシテ引續イテ追加豫算ガ出テ居リマス、此際之ヲ變更スルコトハ政府トシテハ甚ダ困ルノデアリマス、ドウカ惡カラズ、ソレカラ第二ノ手數ノコトニ付キマシテハ出來得ル限り今後施行細則其他ニ於キマシテ法律ノ範圍ニ於テ許ス限リ便宜ヲ圖リタイト思ヒマス

○副委員長(和田彦次郎君) ソレデハ、速記ハ是デ止メマス

大正十年四月十九日印刷

大正十年四月二十日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局